

令和6年度 第2回 松江市ものづくり振興会議

【議事要旨】

1. 日時：令和6年11月7日(木)14:00~16:00
2. 会場：島根県市町村振興センター 6階 大会議室
3. 出席者
 - (1) 【出席委員】
金崎委員、谷口委員、湯野川委員、内藤委員、高橋委員、山中委員、福頼委員、柏井委員、大屋委員、田立委員、天崎委員、江木様（代理出席：小松原委員）、安田様（代理出席：松浦委員）、田代委員、狩野様（代理出席 青砥委員）、荒田委員、竹下委員
 - (2) 【欠席委員】
児玉委員、松崎委員、金築委員、田中委員、壽山委員、北村委員、野村委員
 - (3) 【事務局】
桑垣部長、大谷センター長、高田課長、飯塚係長
4. 次第
 - (1) 開会挨拶
 - (2) 【報告事項】
I 「令和6年度ものづくりアクションプラン事業進捗」について
 - (3) 【協議事項】
I 改定版「第5期ものづくりアクションプラン（案）」について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
5. 議事
【報告事項】①について事務局から説明

<質疑・意見>

なし

【協議事項】①について事務局から説明。

<質疑・意見>

(田代委員)

前回のものづくりアクションプランと比べて、海外という言葉を入れていただいたり、貿易安全保障、或いは MOU を締結しているインド・台湾への展開などを含めていろいろ盛り込んでいただいた。ジェトロとしても身の引き締まる思い。2027 年までのこのプランについて松江市と連携をとりながら協力させていただきたい。私個人としてこのアクションプランは評価させていただきたいと思う。

(谷口委員)

3つほど申し上げたいと思う。1つ目はアクションプランの支援策について。松江市の実情に応じた支援策ということを前回は申し上げたが、今回ざっと全体を見させていただき、かなり苦心作というか、いろいろの方々のご意見を聞いて、それを盛り込んだ形で、良い計画になっているのではないと思う。

ただ詳細については、実際の運用でまた変わってくるかもしれないが、今後の運用において、そのような精神で、進めていただきたいと思います。

2つ目について、予算額の総額は、どれぐらいを想定しておられるかということ。

今年度は補正予算で 1,000 万円追加になったとのことだが、当初と比べると、市単独の予算が増えたように思っている。我々の感覚としては、補助額が少ないというか、もっと何とかならないかというふうにもうしても思うところ。来年度、どれぐらいの予算額を想定しておられるのかをお尋ねしたい。

3つ目は、松江ものづくりネットについて。改めて見せていただいたが、これによる効果については、私も疑問を持っているが、皆さんどういうふうに思われているのか。

できれば、全部作り変えると良いのではないかと思った。

ただ全国の類似サイトを探してみたが、市のレベルではこういったサイトはあまりない。県とか国ではもっと大きいレベルではあるよう。市というレベルで、こういったサイトを作るのは難しいのかもしれないが、もう少し研究してみたらどうかというふうに思う。デザインも古いような気がした。

こんなことができないかと考えていることがあるが、例えば企業側で記事等の書き込みができること。或いはコンテンツを企業側で増やすことができるということ、或いは販売サイトへのリンク（具体的にどこで販売してるのか）を張ることができること。或いは商品についてもうちょっと詳細な説明ができること。（写真や動画を使うことや組み込むことができる）或いは、SNS等へのリンクができること。

それから松江市のホームページから、このものづくりネットまで行くのに苦労した。かなり、サイト上で入り込んでいかないと、どこにあるのかわからない。ものづくりネットとい

う名前を覚えておられる方は、検索すれば出てくるが、そうでない人が松江市のホームページから行こうと思うと、なかなかいけないと思う。これらが気づいた点。

(事務局)

予算額については、現在編成中。おっしゃられるように今年は当初 4,000 万円で、補正予算で 1,000 万円追加した。松江市の一般会計で 5,000 万円。他に国の省エネ関係の交付金を活用した予算が 5,000 万円であり、当初予算が全体で総額 9,000 万円。

例年、国の交付金がないときは 6,000 万円程度で予算化をしている。市全体の財政状況も資材高騰の関係などもある中、厳しい状況であると財政課からも説明を受けているところではあるが、例年並みの予算要求はしたいと考えている。

ものづくりネットについては作成してから 15 年近く経っている。デザイン等もその時のままであり、今後改修等も検討しながらやっていきたい。

(湯野川委員)

今回の報告を聞いて、非常にきめ細かな対応をしていただいたと感じた。

報告事項について、起業家支援の中でスタートアップの企業がどんな企業でどんなことをやっているのかとか、また新分野チャレンジ支援について、新しくチャレンジした会社の実績数だけではなく、どんなふうにチャレンジしたのかなどの成果も一緒に報告していただけると、企業の皆さまにも周知できていいのではないかと思う。

また、経営者を育てるという観点から、その企業が何年ぐらいで、どの程度の事業規模を狙っているのかということも非常に大切なことであり、そういうリクエストをしていくことでその企業が成長していくということも当然あるかと思う。そのあたりの情報も、報告いただくといいのではないかと思う。

(事務局)

製造業に関して、どういった新分野にチャレンジされたかということと、起業エコシステムの関係でも、そういった新しいチャレンジをした内容について 3 月の会議で、説明させていただく。

(山中委員)

非常に細かなところが改善されており、前に比べて非常に良くなったと思っている。非常に心地よく説明を聞かせていただいた。

その中で一番良いと思ったのは、通常行政の資金は年度で区切るものが多く、例えば今であれば 3 月末までに何とかしなくてはならないということになる。今回この補助事業（新分野チャレンジ）について、年度を跨ぐこともでき、活用する側が自由に設定することもできるという認識を持ったが、この認識は合っているか。

(事務局)

制度的に、単年度で区切るものが原則ではあるが、きちんと順を追って手続きをすることで、繰り越しができる場合もある。以前も新製品開発にチャレンジした企業が、予算を繰り越して、事業を2年間で実施された例もある。国の交付金を活用した補助事業についてはできないが、松江市の独自予算の中ではできる場合もある。

(山中委員)

承知した。今後も活用する立場に立った改善を続けていってほしいと思う。

(福頼委員)

アクションプランについて、いろいろ苦勞して、微調整をしてもらいながら使いやすい制度になっていて、良いと思った。

各年の実績が上がっているが、同じ事業所が毎年使っていることもあると思う。初めて使われるような企業が出てくるといいと思っている。

(事務局)

例えば県の補助金などで、販路開拓や営業代行等の補助金、省エネの補助金等についてはこれまで活用した企業は、使えないということがある。初めて使う企業が増えていくように国とか県の制度との差別化と併せて、今後考えていきたいと思っている。

(天崎委員)

事業承継支援の取組みについて、日本政策金融公庫や地元金融機関との連携とあるが、事業承継は喫緊の課題で、さらに踏み込んでやっていかなければいけないと思っている。具体的にはどういった取組みを考えておられるか。

(事務局)

現状は事業承継について我々のところで踏み込んだ取組みはできていないというのが実情。起業エコシステムの取組みの中で事業承継への取組みを進めていきたいと思っている。

例えば、親から子への事業承継のように順当に事業承継される場合は事業承継引き継ぎ支援センターとかでサポートされる部分があると思う。特に起業エコシステムの場合は、代替わりに合わせて新しいビジネスにチャレンジしたい方、新分野にチャレンジしつつ、次の成長のきっかけにしたいという方々に対し、積極的に関わっていくような形を目指している。

日本政策金融公庫に我々として期待していること、一緒に取り組んでいきたいと思っていることは、事業承継に合わせて新しいビジネスに展開したいという方や、将来事業承継をする可能性のある次世代の跡継ぎ後継者の方等の情報共有を行い、スキルアップの情報提

供や研究をしていくというようなことを一緒にできたらと考えている。

(天崎委員)

親族内承継は比較的難しくなく、現在も続けてお話を伺っている。ただ後継者がいないという先に対し、第 3 者に承継していく取組みが今後重要だと思っている。そういった取組みについては、何か具体的なことを考えておられるか。

(事務局)

今年の初めに製造業者にアンケート調査を実施しており、事業承継に関する質問を設けた。

我々は事業承継の専門的な知識を持っていないため、島根県事業承継引き継ぎ支援センターに引継ぎを希望されるかという問いを設けて、回答された企業様を、随時事業所を島根県事業承継引き継ぎ支援センターに取次ぎをしながらやっているという状況。

(天崎委員)

日本政策金融公庫でもマッチング支援というのを実施している。併せてご周知をいただければ思っている。

(田立委員)

脱炭素化推進について、市の取り組みとして補助事業というのは限界があるということは承知しているが、今後の 3 年、5 年、10 年先を見据えたときに、脱炭素関連は非常に大きな課題になってくると思っている。

当行としても、取組みをまだまだできていないところではあるが、市としてもこの取組みについて認知を広げていただけるような工夫をしていただければと思っている。

(事務局)

昨日、松江市の環境エネルギー部と山陰合同銀行の地域振興部、ソリューション営業部、東京海上日動火災保険と 3 者で協議させていただき、その時に山陰合同銀行がこれから始められる Ecoln (エコルン) などの脱炭素化推進の取り組みについても協力してやっていくという話をした。今後さらに皆様と連携してやっていきたいと思っている。

(大屋委員)

私は教育機関ということで技術者の育成をする立場にある。アクションプラン全体を見ると非常にきめ細やかなサポートをされているというところがあるが、人材育成のところについて、松江高専も関わる場所がある。

今、高等教育機関としても、将来の技術者をどのように育成するかという点が重要になっ

ている。その地域のニーズであったり、企業の方の求める人材というのがどういうふうに変わってきたり或いはどういう事情を持たれているのか。

それに対して教育機関が将来の技術者たちをどのように育成していくかというのを、うまくすり合わせる形で、人材育成とか或いは地元就職を目指してくれるような生徒を育てるというようなことをやっていく必要があると思っている。

今年度調査をされているが、企業が求めているのがどういう人材かとか、どういう技術を持った人材であるかなどの情報も欲しいところ。人材不足なので人が欲しいとよく言われるが、単なる人でいいのかと。そうではなくて付加価値のある、技術とか或いはそういったものによって業務の改善や、事業の変化が期待できる人材が必要とされているのではないか。

そういった人材の育成については地域が一体となって取組んでいく必要があると思っている。小学校、中学校或いは県の管轄である高校、それから高専、大学とあるが、将来的にはいろんな分野の専門を持ちながら、情報技術を持った人材を育てなければいけない。国の政策、或いは世界と勝負していくためには、松江市の RubyCityMATSUE2.0 というバージョンアップした取組みがあると思うが、そういったものをうまく兼ね合わせながら、求める人材や人材育成とアクションプランの補助事業とを絡めながら、一体になって育成するようなことができるかというのかと感じた。

また、松江ものづくりネットについて、これは先ほど15年前からあるという話だったが、今後もしバージョンアップをする場合、従来通りのホームページの作り方をすると、作った時点で陳腐化するということが考えられる。今、国とかが進む方向は、フォーマットを決めてデータを入れ、その情報を使って一方向の情報発信ではなく、必要な情報はめていくというような形。その中で、谷口委員も言われたが、使用する側がカスタマイズして、いろいろできた方がいいとなると、少しそのあたりの考え方とか、データの持ち方等をカスタマイズしながら情報をつなげていくようになる。

情報はそれぞれ発信するのではなくて、情報をたくさん貯めておいて、それらをつなげて生きた情報にしていくというような考えのもとで、この松江ものづくりネットが変わると新しい可能性が出てくるのではないか。

今、我々も取り組んでいるのは、資料のような紙のデータなど非構造化されたデータを貯めておいて、そこから最近あるようなチャットGPTでは、大規模言語モデルを使いながら、構造化データを作り上げて行って、そこへデータをつなげて行って、価値を生み出していくという技術になっている。そういったものを踏まえながら、せっかく市として取組んでいるこの財産を活かしていくように考えていただけたらなというふうに感じた。

(事務局)

人材育成について地域が一体となって取組まなければいけないという点について、おっしゃられる通りだと思っている。今年度中学生向けの職業体験イベントを実施する予定。昨年度は小学生向けのイベントをやらせていただいた。高校生それから大学も合わせて、子どもころから継ぎ目がないような形で、ものづくり企業を始め、地元の企業に愛着を持てるような取組みをこれからもしていきたいと思っている。

ものづくりネットの活用につきましては別途詳細にお話を伺いたいと思うのでお願いしたい。

(安田様)

皆様が言われた通り、今回のアクションプランの素案について、かなりきめ細やかにされ、またいろいろな企業の皆様のご意見をかなり反映されたというふうに感じている。

特に短期的な取組みがしっかりなされていて、それは長期的なものに芽を咲かせるための取組みだというふうに思っている。

今回の場合では、脱炭素や物価高騰などに対してもしっかりと手厚い支援が入っているし、全方位的な内容だというふうに私は感じている。

ものづくり産業支援センターとは同じフロアにあるので、また引き続き連携をさせていただきながら、松江市の事業者の皆様のお力になればというふうに思っているので、引き続きお願いしたい。

(狩野様)

7 ページの企業訪問、16 ページの新事業開発や既存製品技術の改良、付加価値向上等取組みを支援されるという点、また 19 ページの産学官との連携というところについて、昨年度から島根県の産業振興課が窓口となり松江高専・島根大学・島根県立大学・しまね産業振興財団・島根県産業技術センターで連携して課題解決に向けて毎月定例会を開催している。

企業訪問される中で、ものづくり企業の課題を把握された場合に、その定例会に投げ込んでいただくと課題解決に向けてそれに対応できる研究者いるかどうかといった検討を行うことができる。企業名はお伝え出来ないが、最近で言うと製品開発に向けた相談を受け、松江高専に繋がったところ解決に向けて繋がっているケースもある。すべてが対応できるかどうかは別にして、実績の上がったケースもあるので、課題を把握されたら産業振興課の方に情報をいただければ、例えば大学の方に向けて共同研究の提案や支援制度の紹介などでもできるかなと思うので、連携していただけたらと思う。

ものづくり体験事業について、主たる対象が小中高生になっているが、そういった情報も共有いただけると先ほど申し上げた定例会の中で、こんな企業が工場見学を受入れているといった情報を高専や大学で学内展開していただける可能性もあるので積極的に情報を共有いただければと思う。なるべく連携していきたい。

(事務局)

当センターでは専門員が定期的に企業訪問させていただいており、大変ありがたいお話だと思っている。是非連携していきたいと思っているのでお願いしたい。ものづくり体験教室等につきましては、企業の方から是非やりたいというお声もいただいている。こちらについても連携していただけたらと思っている。

(金崎委員)

アクションプランについては非常に充実した内容に出来上がったというふうに思っているが、あと希望するのは予算を増やして欲しいということ。また我々、使う方もいろいろともう少し中身を勉強して、うまく活用することで企業の発展に繋がればと思っている。

先ほど話があったとおり、10月31日に中海圏域にて展示会があった。我々を取り巻く環境は非常に厳しいものがあり、各社一生懸命に営業活動を行っている。しかし、そういった展示会などに出席してもどうしても松江市・島根県の製造業は知名度が低いという課題がある。まず、松江でこんなことができる、こんな製造業があるというところから始まる。

これについては我々の努力だけでどうしようもなく、行政の皆様のお力も借りなくてはならない。どういう形がいいのか今は思いつかないが、何かいい方法があれば、アクションプランの中にも入れていただきたいと思う。アクションプランの中身についていろいろなところが支援策を行っており、似たような内容もある中でどこの言うことを聞けばいいのかわからない、どこに相談していいかわからないということがある。いい支援策がありますので何とか使って、松江の製造業として頑張っていきたいと思っております。

人材確保に関して、11月13日に会議所主催で学校の相談窓口の先生方4名に我々製造業を見てもらおうということで工場見学を行っていただく。例えば学生向けにどういうことをPRしたら学生が入りたいという気持ちになるだろうという話をする場を設けているなど、これまでに3年ほど実施している。2か所工場を見ていただき、ざっくばらんな意見交換を行うというもの。まず先生方に企業を見ていただいたうえで、生徒に情報を伝えてもらう。そういったことをやっている。

(事務局)

松江市の製造業を、他の地域の方にも知ってもらう取り組みは大切だと思っている。機械要素展等の展示会において島根県或いはしまね産業振興財団でのブースを作っていただき、地域として製造業のPRをしていただいていると思っている。最近では九州で開催されたものづくりフェアに鐵工会でブースを設けられて、本日の委員の皆様も一部出展されたと同っている。そういった展示会等に出ていただき、この地域をアピールしていただくのも必要だと思っている。島根県によるブース等の展示会出展支援や松江市での販路開拓の補助金による支援等があるので、活用していただき販路開拓に役立てていただきたいと思う。

(高橋委員)

アクションプランの内容について、内容が現状に合っているというか、しっかりと実績等々を踏まえて範囲の拡充をしていただいて、とても助かるなという思いでいっぱい。

やはりこれからデジタル化促進というのが確実に進んでくると感じており、弊社でも生産活動以外の業務のところで省力化を図っていこうという活動もする中で、今回のデジタル化促進支援補助金の生産工程以外のソフトウェア等の導入支援ということがすごくありがたいと思っている。

今後、やはりこの変更点をどう活用される方々に伝えていけるかがすごく重要なことかと思っている。またちょっと気になったのが、実績のところ、どれぐらいの規模の企業様が使われているのかという点が気になった。どういう企業様に向けて発信をしていくのかという点もすごく大事になってくるのではないかと感じた。

(事務局)

例年活用される企業様の傾向等もまたしっかりと分析をさせていただきたいと思っている。

(内藤委員)

きめ細やかな内容に拡充されており、本当に多方面で、とても我々使う方に寄り添った内容で作っていただいて、ありがたいなというふうに思う。

最近どんどん最低賃金が上がっており、零細企業としてはとても厳しい状況。生産性向上やデジタル化が必要になってきているが、もともと書いたり、数えたりということがあまり得意な方ではないので、そういう点について支援いただくと我々の業界の方もすごく進んでいけるのではないかとと思っている。

(柏井委員)

アクションプランの支援策について、皆様おっしゃられるように非常に細かく設定されていて、本当にありがたいなというふうに感じている。

その中で、人材確保育成支援の労務環境整備のための就業規則等の整備に係る経費の支援という点について、定着とか人材育成においては、働く方たちのキャリアプランとか、もしくは人事制度みたいなものがあると、よりこの会社に勤めてみようかなとか、何年働けるかとかなどの新たなイメージに繋がると思う。そういった部分の構築にかかる経費等も含めていただけたらいいのかなと思う。

それから、職場環境改善支援でヒューム対策や粉塵対策、騒音対策とかにかかる経費は結構な金額かかると思うので、上限 20 万円となっているがもう少し増額していただくと、より取り組みやすくなるのではないかとと思う。

(事務局)

まず 1 点目の人材育成確保支援の労働環境整備のための就業規則等の整備に要する経費については、ハローワークで取り組んでおられるユースエール認定制度等を取得されるための経費を想定している。ハローワークと情報交換をする中で、ユースエール認定制度を取得した企業は募集に対して非常に応募が多いということを聞いており、そういった部分への支援を検討している。挙げている支援制度は例であり、柏井委員が言われた点についても検討していく。

2 点目の職場環境改善の補助上限の件について、先ほどもお伝えしたように予算が限られているため調整していく。資料に掲載している補助上限、補助率は現在想定している内容であるため、引き続き検討していく。

(荒田委員)

私自身、振興会議に長年出席させていただき、常々いろいろなことを申し上げてきた。来年度のこの支援策については、かなり踏み込まれたなという印象。我々はものづくり補助金やカタログ型補助金の事務をやっているため、国の支援、島根県の支援がある中で、市は市で、少額でもいいから痒いところに手が届くような支援策がいいのではないかとずっと申し上げてきた。来年度についてはかなり踏み込まれたなと。非常に評価をさせていただいた。

特に、技能検定の検定費用の支援や、就業規則を整備する社労士への経費の支援だとか、国や県では難しい支援を考慮しておられる。展示会出展時の交通費、宿泊費についても同様に、島根県では支援しているとは思いますが、国では難しい。

また、新製品開発のトライアル事業については、要するに試作品が完成しなくても補助が出ると言っているようなもの。これは相当踏み込まれたなと、非常に評価をさせていただきたいと思う。

是非予算を確保していただき、補助率を上げていただいて、実効あるものになればいいなと思う。

(竹下委員)

右に同じで、本当にアクションプランについて、いい計画だなと思った。従前から私も何年か出席させていただいているが、何かある度に柔軟にプランを変更されたり、補助額を上げたりと対応されている。先ほどのお話でもあったように、やはり少額の補助金についても小規模企業者には必要なことだと思っている。またこのプランに限らず、今後、様々な社会情勢等も影響もあると思うので、その時にはまた柔軟な対応をお願いしたいと思う。

また、人材育成のことについて先ほどもご紹介があったが、来年の 1 月 21 日に松江商工会議所主催で松江市から補助金をいただいて、くにびきメッセの方で中学生の体験イベントを開催する予定。

現在募集中で、大分集まってきている状況。製造業に限らず、商業サービス業も合わせて全

部で 60 社程度の企業に出店していただく予定。市内の公立中学校、開星中学、聖徳学院、付属中学から中学 2 年生の生徒に参加していただき、見学していただくということになっている。

なかなか製造業者にとってブースの準備が大変かと思うが、鐵工会にもご協力いただきながらご出席いただき、できるだけ中学校の皆さんにもものづくりの楽しさが伝えられるような体験をしていただければと思っている。

本件の実行委員会を商工会議所で受け持っており、委員の方から言われているのは、こういうイベントをやることは非常にいいことだが、学校でのキャリア教育みたいなものの中で、キャリアコンサルタントを招いて話をしてもらうなどして、イベントの事前事後でいろんな話をしていただくことが必要だという意見も出ている。教育委員会も含めて、ものづくりに関してのそういった活動を実施していただくと、より将来的に生徒たちが製造業の方に進んでいくきっかけになるのではないかと思うので、ご検討をお願いしたい。

(江木様)

島根県産業技術センターでは、企業の新製品開発や技術開発への支援を行っており、その他にも企業の困りごとへの対応についても併せて行っている。

そういった中で、新製品・新技術だけではなく、既存製品の改良とか今の技術の改善等の相談も数多くある。

来年度、トライアル事業を新たに作られて、その中で、既存製品・技術の改良に取り組む事業を支援されるということで、我々のところに相談に来られた企業に対して、こういった補助金があるというような紹介ができる。紹介をすることによって、企業の新しい取組みの実行がしやすくなるのではないかと感じており、非常に企業さんにとっても、また、支援する我々にとっても、ありがたい補助金だと感じている。

我々も積極的にこういった補助金を企業にお伝えしていこうと思うので、利用件数が増えてくるようであれば、より多く予算をつけていただけたらと期待する。

(事務局)

企業の皆様へご紹介等していただきたいと思っている。

(大屋委員)

先ほど県の方からご紹介あったように松江高専では企業から相談があったことを教員が対応しているところであるが、今年度は県の補助金を活用させていただいて企業の課題を学生たちが事業改善・解決する取組みを行っている。見学させていただいた企業は島根県の中小企業のトップ企業がほとんどで、逆にもう少し製造業の現実的なところで現場を改善するといったことやデジタルを使って何ができるかといったところに踏み込んでいけるといい。

学生のキャリア教育の一環としても、地域課題或いは課題を抽出してそれを抽象化して、改善提案に結びつけていくといったことを行っている。高専の学生たちは技術を持っており単なるアイデアで終わるのではなく、ものを作りながらといった形で提案ができたりする。

先ほど説明のあったトライアルの補助金しかり、企業の課題や相談に対して品質確保や検査といった場面でいろいろなことができる。しかしながら高専自体に予算がないことに加え学校にはなかなかフィールドがないので、連携という形で是非繋げていただきたい。学生が地域の企業を知るということは、すぐにではないが将来的に地元に戻ってくる、あるいは最初の就職のきっかけになればという思いがある。学校としても積極的に進めようと思っている。

(事務局)

現時点では本振興会議の資料に書いてあることが全て決定事項というわけではなく、対象範囲や方向性など今後も検討していく。まだ3月まで時間があるので、どのような形で連携できるかなどを検討させていただく。また、ホームページの件も含めて、別途、大屋委員に具体的なお話を伺う場を設けさせていただきたい。

(谷口委員)

先ほどの大屋委員のお話はとても面白い。ただ具体的にじゃあどんなこと、どういうふうにできるのかということが現時点では思い浮かばない。今後事務局が直接お話される場を設けるということなので、是非我々にも共有をお願いしたい。

(事務局)

次回の会議で報告をさせていただく。

(桑垣部長)

本日は大変貴重なご意見を頂いた。本会議では皆様より忌憚のない意見をいただくことができ、それにより様々なアイデアが生まれ、ものづくり産業支援を進めるにあたり、非常に有意義な会議を開催できていると思っている。

ご意見をいただいた中で、痒いところに手が届くというようなお話があったと思うが、やはり国、県、市それぞれの役割があると考えており、国と同じことをする必要はなく、本当に細かい部分で手が届くところを市が支援するといったことをこれからも考えていきたいと思っており、それをまた皆様に知っていただくことが重要かと思っている。

人材育成・確保についても特効薬がないというのが事実で、生産性向上に向けてDX・IT化によって現場の改善を行っていくとか、ものづくりアクションプランにもある既存の従業員の方をいかに環境のいいところで働いてもらうかということも考えていかないとい

けない。商工会議所の皆さんが中心となって中学生の職業体験をまずやってみようと、これが将来に繋がっていけばいいなと思っている。これは松江市全校の中学 2 年生にくにびきメッセに来ていただこうと思っており、授業の一環として教育委員会のご協力も得ながら、ともに企画をしているところです。

出展企業にはまだもう少し枠があるとも聞いている。委員の皆様の中でご興味がある企業様は是非商工会議所の方に竹下委員にご一報いただければとも思いますし、関係先の企業でちょっと出てみようかなと思う企業に心当たりがあればお伝えをいただければなと思う。

事業承継については、なかなか手がついてない部分ではありますけれども、事業承継引継支援センターというのが、国の委託を受けて、商工会議所の方で窓口を持っておられる。

商工会議所のご担当者とは少しずつ話をしているが、例えばその窓口を会議所だけではなく、まずはトライアル的に月に 1 回は市役所でも窓口を持ってみようかということも考えているところ。それをうまく政策金融公庫や金融機関の皆様と連携を図りながら M & A も含めた事業承継というものに繋げていければなと考えている。また RubyCityMATSUE、起業エコシステムとの繋がりを持たせるといったことも実施していきたいというふうに思っているので、産業支援センターや新産業創造課にご相談、アクションをとっていただきたいと思う。

また、補助金を活用された企業の皆様が補助金を使ってどういう効果があったのか、会社の改善にどう繋がったのかというところもしっかり情報収集する必要があると考えている。これまで活用されていない企業の皆様により使っていただけるように、まずは補助制度をしっかりと PR をしていきたいと思う。引き続きのご支援ご協力のほど、お願いしたい。

6. 所管課等

松江市産業経済部ものづくり産業支援センター

電話 60-7101